

海外発ビジネス最前線(第4回)

Amazonが「声」で世界を変えようとしている

2017.06.22



「Amazon Lex」をご存じでしょうか。ネット通販の大手である米Amazonの系列会社「AWS(アマゾンウェブサービス)」が始めた、音声やテキストを使用して、任意のアプリケーションに対話型インターフェースを構築するサービスです。

近未来的には、ネットにつながっている家電製品などを音声で操作できるといわれています。こうした未来の生活を可能にするのが、同社の所有するAI(人工知能)です。2017年4月にリリースされ、広く話題となっています。なぜ、このAmazon Lexが話題になっているのか――。「声」の力で、世界が大きく変わる可能性があるからです。

なぜ音声で操作することが重要なのか？

Amazon Lexでできる例をいくつか挙げましょう。

例えば、スマートフォンに話しかけるだけで、クラウド上のスケジュールの調整や、航空券の手配やホテルの予約が可能になります。あるいは、社内システムに「今週最も多く注文をいただいている、現在地点から半径20キロ以内に事務所がある取引先」といった言葉で情報を求めれば、人に依頼したように取得できます。

この「音声認識」が、コンピューター業界には大きな革命なのです。AWSでは、人間とコンピューターを結ぶインターフェースを「3つの世代」に分類しています。第1世代は、パンチカードやメモリーレジスター(計算機)を使って、コンピューターと“対話”した時代です。第2世代が、現代のような、キーボードやマウスなどのデバイスを使って、コンピューターを操作する時代です。

そして、Amazon Lexのように、音声でコンピューターとコミュニケーションを交わすのが、第3世代です。SFドラマ「スタートレック」の中に登場するような、人とコンピューターが対話をする第3世代のインターフェースを、Amazon Lexは提供してくれるというわけです。

Amazonがボイスコンピューティング界の盟主になる？… 続きを読む